

「環境」との共創共生で持続可能な社会の実現を描く

第 20 回環境コミュニケーション大賞

環境コミュニケーション大賞制定 20 回記念大賞（環境大臣賞）

大和ハウス工業株式会社



環境報告書部門



環境コミュニケーション大賞からいただく講評コメントを生かして

—「環境コミュニケーション大賞」の応募のきっかけについてお聞かせください。

環境コミュニケーション大賞には、近年毎年応募しています。有識者の方から具体的な講評コメントをいただけますので、そのコメントに丁寧に対応して、翌年の環境報告書作成に生かしてきました。環境コミュニケーション大賞への応募を通じて、有識者の先生方とのネットワークづくりもできました。

ESG 投資への高まりとともに投資家目線も意識

—環境報告書作成の際に工夫している点を教えてください。

報告書の作成にあたり、環境コミュニケーション大賞から我が社にいただく講評コメント以外に、他社の講評コメントも参考になります。また、独自で実施している有識者との意見交換会で頂戴した報告書の足りない点などについても対応しています。

また、従来は社員やお客様、お取引先などを対象として、分かりやすく、読んでもらえるような工夫をしてきましたが、昨今の ESG 投資の高まりとともに、投資家や評価機関に向けての説明も意識し、リスクや機会、長期目標などをしっかりと伝えています。

実際の報告書作成は少数メンバーで作成しています。以前は各部門に原稿作成を依頼し、それを集めて報告書にしていましたが、環境マネジメントの仕組みを活用して、情報や事例を自分たちで入手、それをもとに全体のストーリーを意識して編集しています。

「社外から求められている取組や情報」を意識して報告書を作成

—SDGs や ESG 投資などの最近の動向についてはどう捉えていますか？

ESG 評価や調査をされる機関は動きが早く、公開している情報をもとにレーティングをされています。実際には取り組んでいる事項でも報告書等にきちんと掲載していないと、「実施していない」と評価されてしまうこともあります。

さまざまな機関が評価項目を設定していますが、気候変動や資源循環、汚染防止などの

大きなカテゴリはどこも共通していますから、それらを「社外から求められている取組や情報」であると意識し、担当部門と連携して対応しています。

SDGsについては、まず17の目標・169のターゲットと当社グループの取組がどのように紐づいているのかを整理し、2017年度から報告書で紹介しています。今後はより工夫をして、分かりやすく報告書に掲載したいと思います。

受賞ロゴマークはひと目で分かるため、とても使いやすい

—受賞後、社内外の反応で変わった点はござりますか。

第20回環境コミュニケーション大賞を受賞しまして、環境担当役員が表彰式でスピーチをさせていただく機会を頂戴し、社内外に大きなアピールができました。特に社内では、経営層にも環境コミュニケーションに関する取組の理解を深めてもらう大変良い機会となりました。

—昨年度から環境コミュニケーション大賞受賞者の方に受賞ロゴマークを提供しています。

受賞ロゴマークはひと目で受賞内容が分かるため、とても使いやすく、様々な媒体で活用しています。例えば株主に配布する報告書でも、この受賞ロゴマークを使用し、環境コミュニケーション大賞の受賞をアピールしています。

環境コミュニケーション担当者の情報交換があるとよい

—今後の環境コミュニケーション大賞に求めるものなどがあれば教えてください。

最近は環境報告書だけではなく、サステナビリティ報告書や統合報告書など、さまざまな形態や考え方の報告書が発行されています。特に統合報告書をつくっている企業にとっては、賞の対象が環境報告書にクローズアップされていると、対応が難しいと思われます。さまざまな報告形態がありますが、類型ごとに審査をしていただけるとありがたいです。

また、環境コミュニケーション大賞において大賞や優秀賞を受賞している企業は、どの会社も試行錯誤をされながら報告書を作成しているかと思います。表彰式内では時間が短く難しいかと思いますので、別の機会でも良いので環境コミュニケーションに関する担当者が会する情報交換の場があるとうれしいです。

—ありがとうございました。

